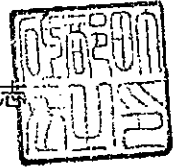


20 碓建第 163 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

碓部町長 中 村 剛 志



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け、国道企第 37 号にて依頼のありました、標記の件
につきまして、別紙のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

愛媛県伊予郡砥部町

愛媛県全体で道路整備は着実に進んでいると感じていますが、砥部町では大量輸送交通機関がないため、道路整備に対するニーズは非常に高い状況であります。それは、生活に身近な道路を中心に整備が遅れているからです。そんな中、道路特定財源等に関する基本方針が閣議決定され、整備が遅れている生活道路が、更に遅れるのではないかと懸念をしています。

今後の具体的な道路整備の姿を示す「道路の中期計画」の見直しに当り、地域の特性を十分ご理解いただき、画一的な計画ではなく、それぞれの地域に配慮した整備計画により、地方の道路整備が図れるようお願いしたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

本町では、過去に住民サービス向上のため、多くの身近な生活道路を町道認定してきた。

現在では、合併に伴い444路線、245kmとなっているが、地域のさまざまな要望に対応することができない状況で、施設の老朽化も進んでいる。市街化区域内の町道は何とか適正に維持管理できているが、山間部の町道は管理ができていないのが現状である。

国道、県道クラスの幹線道路の整備については、着実に進んでいると感じているが、中山間地の幹線道路は、まだまだ未整備区間が残っている。

様式 ②

愛媛県伊予郡砥部町

○課題

過去、中山間地の道を町道認定するに当り、草刈り・清掃は各地域で、改良・舗装等は町でという合意が過疎化・高齢化により崩れてきている。

そのため、それぞれの町道の特性、地域性を考慮し、各地域との協力体制と愛ロードサポーター制度を整え、適正管理をする必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案 ②-2 地域の目指すべき将来像

愛媛県伊予郡砥部町

本町では、『砥部焼と豊かな自然、みんなで創る陶街道』を将来像とし「安心・安全を実感できるまちづくり」、「自立と協働によるまちづくり」等を基本理念に、住民と町がそれぞれの役割分担のもと、国道３３号と国道３７９号を「砥部陶街道」と名付け、住民と町が目指すべき将来像を共有し、まちづくりに取り組む「協働社会」を目指しています。